

▼ 京都映像アワード2017 入賞作品上映 <13:00~>

1. 美しき過疎
 監督・梨元明衣
 (日本) 19分59秒
 ・法政大学社会学部メディア社会学科



年々増加する地方の過疎化。全国に1800ある市町村のうち、30年後は半数が消滅可能性都市だという。その実態を探ろうと作者は長野県栄村に通う。村は2011年3.12の長野県北部地震で被災を受けたこともあってか、人口減少が進み、現在2000人、半が高齢者だという。“この村はもう駄目だ”と口癖の斎藤安五郎さん83歳の冬の生活を追う。一方移住して来る夫婦もいる。作者はすっかりこの村が好きになった。

2. 北村への想い
 監督・塩貝大輔
 (日本) 40分00秒



京都府美山町北地区で、住民それぞれが課題と向き合う姿を記録。観光客向けの店が並ぶ地区にせず、日常生活の維持を基本に景観保全につなげた経緯を紹介。観光客の反応が住民の自信につながった様子を映した。北村での取材は、かやぶきの里保存会関係者、民宿やカフェのオーナー、かやぶき職人、ガイドなどで幅広い層に及んだ。地域とは何かを考えさせる作品。

3. STOP!! ながらスマホ
 神奈川県立相模田名高等学校
 交通安全隊(米山 肇 先生)
 (日本) 3分20秒



問題提起型ドラマ、交通安全のPRビデオ作品。女子高生が学校の帰りに彼氏の家に行くことを約束するが、掃除当番があり、遅くなり慌てて自転車をこぎ出す。そして電話が鳴り出し、運転しながら会話を始めてしまう。このあと2つの運命が待っている。高校生たちが抱えている身近なモチーフが自然体で織り込まれている。一瞬だがモーショングラフィックスを使って編集してドキッとさせる。

4. 集団自決〜獄の戦士の秘話
 監督・松田治三
 (日本) 15分50秒



戦前日本政府は農民困窮政策として満州(現在の中国東北部)での農業移民を打ち出した。世にいう“満州開拓団”である。全国から27万人、広島県は全国で8番目に多い1万1000人を送り出した。豊かな自然に育まれた開拓生活だったが、敗戦と共に、ソ連軍の猛攻、地元住民による襲撃と生きる術を失った農民たちは自決など極限状態に追い込まれた。現在では子孫の人たちも知らない事実を解明して行く。

5. ひまわり
 監督・堀皓二
 (日本) 10分00秒



戦争秘話。主人公の船戸さんが中学1年の時、ヒロシマ原爆が投下され、大勢の子供たちも亡くなった。彼は家族と3日前に疎開していたので、運良く助かったのだ。後年になって亡くなった同級生の夢を見るようになる。偶然彼は新聞で1冊の絵本を購入すると1枚の絵に釘付けになる。ひまわりの大輪だが、花びらは子供たちの屍なのだ。自責の念に駆られ、65年ぶりの広島行きを決意する。彼は母校の校庭で立ち尽くす。子供たちの声は幻聴だろうか。安堵の気持ちが彼を包む。

6. ウィータ・ラカマヤ (Vita Lakamaya)
 監督・泉原昭仁
 (日本) 8分00分



アニメーション。ウィータ・ラカマヤの牧草地にいる生き物。カメラは非常にゆっくりと動き、地面と世界を映し出す。一見ナイーブなアニメーションは、森を通り抜ける生き物の突然の行進と困惑するような静けさ。牧草地には、カブトムシと蝶。時の移ろいを感じさせる。葉が落ち、眠っている。季節は終わりを告げ、年の終わりを告げる。

7. リリの楽園 (Lili's Paradise)
 監督・メリナ・レオン (Melina Leon)
 (ペルー) 17分



1980年代後半のペルー。家では無神論者で革命家の兄から型破りな教育を受け、学校では退屈な時間を過ごすリリ。そんな彼女の楽しみは、紙の人形でつくった人形芝居。自ら物語を想像しては芝居の世界に入りこんでゆくリリ。だがある日、突然、ゲリラに加わるため、兄が旅立って行った……。コロンビア大学に在籍していたレオン監督の実体験に基づく卒業制作作品。

8. PLANET Σ
 監督・瀬戸桃子
 (フランス) 12分00秒



惑星Σでは巨大な昆虫達が氷に閉じ込められていた。海底噴火が惑星の温暖化を引き起こし、生命の新しい営みがまた始まる。パリ在住の映像アーティスト瀬戸桃子による惑星3部作の最終章。

9. 被ばく牛と生きる
 監督・松原保
 (日本) 30分00秒



東福島第一原発事故の後、半径20km圏内は立入禁止の“警戒区域”になった。2か月後、政府は圏内にいる全ての家畜の殺処分を通過。強制避難を強いられ、明日をも見えない農家は、涙を吞んで国の方針に従うしかなかった。しかし国が決定した殺処分の方針に納得できず、莫大な飼料を自分で負担しながら牛を生かし続けようとする畜産農家が現れた。故郷も仕事も奪われ、それでも経済価値のない牛を生かし続ける農家の刹那と悲哀を静かに描いたドキュメンタリー。

10. 共謀罪が通った日「前夜」がやって来た
 監督・湯本雅典
 (日本) 20分11秒



犯罪を準備段階から処罰できる共謀罪法案が国会で審議され、超スピードで審議され、わずか2ヶ月で可決されようとしている状況の中で、反対運動は一般市民にも広がりを見せた。2017年6月15日決裁前夜、国会前で反対の意思表示をしている人たちに、作者はカメラとマイクを向けた。ある主婦は“自分は戦争を知らない。それを次世代に遺せないとしたら、申し訳ない”市民の平和を望む声で溢れる。

11. Mr.Zero
 監督・ナター・タンティワイタイヤーピターク (Nutchai Tantivitayapitak)
 (タイ) 30分14秒



挑発的な執筆活動のため、精神疾患の疑いをかけられた作家・翻訳家ブンディート・アニーヤー (Bundit Aneeya) の物語。過去3度にわたりタイの不敬罪にあたる刑法第112条で告発されている彼の作品や人生を、深く掘り下げて紹介する。

12. はじまりの前に
 監督・島崎夏乃子
 (日本) 16分23秒
 ・埼玉県立芸術総合高等学校・映像芸術科



ドラマ。新学年を迎えて、進路も、自分のしたいことも見つからないと悩む女子高生有馬。彼女の前に現れたのは新クラスの男子学生。彼はUMA(ユーマ:未確認動物)と一緒に探索しないかと誘う。UMAとはツチノコやネッシーなどの存在の可能性がある、噂だけで、まだ確認されていない未確認生物のことだ。彼と二人、森の中で、巨大な足跡を発見し、興奮するが、通りがかりのおじさんの靴が異常に巨大だった。しかしUMA探しがきっかけで彼女は自ら行動し始めようとする。

13. 言葉にならない気持ちを
 監督・橋本七海
 (日本) 14分39秒
 ・埼玉県立芸術総合高等学校・映像芸術科



ドラマ。昨年、交通事故で母親が亡くなり、それまでは幸せで明るかったのだが、以後、父親と会話をしなくなってしまった主人公の高校生男子。彼はクラス会で高校の図書委員に決まる。図書室で、“お悩みノート”を見つける。ノートに自分の悩みを書いてみると、次の日に返事が書き足されていた。励ましの文を書いたのは女子高生。謎の相手とのノートによる文通で、主人公は次第に元気を貰い、とうとう父親と話します。

14. 10minutes older
 監督・ヘルツ・フランク
 (ラトビア=イスラエル) 10分00秒



ヘルツ・フランクの精神的短編映画は、ぜひ大画面で見たい。感情の嵐は、私たちが見ることのないショーを見ながら、子供の顔を横切っていく。小さな生涯での10分間。子供たちがなぜ映画に魅了されているのか、映画館はなぜ子供たちに魅了されているのか、たった10分が長い人生とつながっている。

▲終了(17:10分・予定)

▼ トークショー <17:10~> ◎テーマ:「Aging (エイジング): 時を経る」

				
杉原 賢彦 ・映画批評家	佐藤 博昭 ・ビデオ作家	ロベズ・マリオ・アイバン ・京都大学 東南アジア研究所	谷元 浩之 ・映画プロデューサー	広瀬 之宏 ・京都国際インディーズ映画祭代表

「小さな映画」に託された日常の不思議や課題を読み解き、「映像・映画の果たすべき役割とは何か」を討議する。テーマ:「Aging (エイジング): 時を経る」小さな映画が、人を、地域を、国を、世界を動かす。その根源に迫る。

▼ 第6回 京都映像アワード授賞式 <18:00~> 審査総評、入賞者発表、授賞式

★懇親会 <19:00~> お時間のある方、お気軽にご参加ください。

▼ ナイト上映 (20:30 予定)

15. ある踊り子 (修正版)
 監督・小林莉菜
 (日本) 23分41秒



ストリップに生きる場所を見つけ、人生を救われたという踊り子。ストリップショーの踊り子の生活ドキュメントから見えてくる自分の居場所。劇場のみんなは家族、ここが幸せと言う。法律の間で潰れていった劇場を惜しみ、それでもショーを続けていくのは・・・。

* 作品名の前に表記している No. は、上映の順番です。 * 上映時間は都合により前後する場合がございます * 上映作品は、都合によりプログラムを変更することがございます。予めご了承ください。